

---

# 元人間。元神。今？

ある日のあひる

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

元人間。元神。今？

### 【Nコード】

N0931Z

### 【作者名】

ある日のおひる

### 【あらすじ】

ある日、高校生の人璃心軌は、自分の意思とは、関係無く、神にされた。

## 一 神話 前書き

俺、元、人間。

元、神。

今、？

これが、僕、人璃ひとり 心軌しんき

現在、？ と言う事になるだろう。？。はてな。クエスチョン。意味不明。理解不可。不可解。摩訶不思議。俺だってそうだ。どうやら、今の僕は、人間では、無いらしい。いや、人間だったが正しいか。まあ、人間で無い事に変わりは、無い。

僕は、人間から、神になり。神から？になった。はてなと言うのは、名が無いからだ。いや、本当は、世界中血眼になって探せば、見つかるかもしれないが、そこまでの気には、ならない。

名。元、人璃心軌。今でも、それを名乗っていいのかは、分からない。これは人間だった頃の名のだから。でも、使わせて貰っている。別にこの名前が気にいっていた訳じゃないが、この名前を使つて、16年。今から、新たに付けるのもアレだから……

そう、僕は、一カ月前まで、人間だった。それが、一生続くものだと思っていた。

だが、運命の悪戯か。偶然か。必然か。奇跡か。分からないが、僕の意味とは、関係無く、僕は『神』になった。

## 二神話 付いている

高校に入って二回目の春と夏の間。その日は、春と言うには、暑く。夏と言うには涼しいそんな日だ。五月中旬の事。学校帰り。下校途中。僕は、僕は独り。

今は、学校近くにある書店で立ち読みをしている、漫画、小説、ライトノベル。サブカルチャー。本は好きだ。買うつもりが無い立ち読み。店員には、申し訳ないが、たまに買うので、今日のところは見逃して欲しい。などと、自分勝手の言い訳をし、手ぶらで書店を後にする。いや、手ぶらでは無かった。学校の鞆と、『傘』それが僕の手には握られている。

書店を出ると、辺りは、暗くなり始め、僕の視野に入る人々は、小走りで走る人が多い。雨が降っている。天気予報じゃ、今日の朝見た、テレビの的予報の降水確率は、0%。それで傘を持っていない人も多いのだ。でも、何故か、僕は、『傘』を持っていた。ラッキーだ。付いている。なんとなく、意識をしないで。無意識で。何故か今日家から持ってきた、『傘』、ソレを差し、僕は、近くのバス停へ向かう。普段は、自転車で登下校をしているが、今日は、『たまたま』バスで登下校だ。理由は、得に無い。ただなんとなく、そう、ただそれだけだ。

バスに乗り、家の近くのバス停まで向かう。雨が降り出した事もあり、人がいつもよりも多く乗っていたが、運よく僕は、開いている席に、座る事が出来た。

今日は、妙に付いている、朝、天気予報の次にやっていた正座占いが12位だったがやっぱり関係の無いことだ。僕は、占いなど信じてはいない。あんなモノを放送するんだったら、他に放送しなければいけない事が在るんじゃないだろうか、国によっては、本気で

占いを信じている人が多く居る国が存在すると聞くが、全く、どうかしているんじゃないかと僕は、思う。

そんな事を考えながら、バスに揺られること、15分くらいだろうか、一番家に近い、バス停で僕は降りた。

此処で降りたのは、僕独りだけ、辺りは、もうかなり暗い。僕の家までの道は、余り人通りが多いとは、言えない。家もそれ程多くは無い。まあ、手っ取り早く言うところと薄気味悪い道だ。一定の距離ごとに在る、電柱。その上には、今にも消えかけそうな、ライトが付いて、弱い光で暗い道を照らしている。その光に群がる、虫達もこの気味悪さに一役買っているだろう。

だが、僕にとっては、何でも無い通いなれた道だ。恐怖など無い。子供じゃあるまいし、ましてや、僕は、幽霊や、魂なんて、非科学的な物を信じてなどいないのだから。

傘を差し、歩く僕。勿論足音は、僕独りだけ。他の音といったら、雨音ただそれだけ。ここまで別に何も変では無かった。よく在る日常の風景。

だが、いつもと違う事が一つある。いや、見つけた。違うと言うより、変だ。電柱の下に誰かが立っている。いや、ただ立っているなら、何も変では無いだろうが、明らかにコイツは、変だ。

電柱の上には在るおぼろげなライトの光に照らされているその『男』の外見は、Gパンに、サンダル、半袖Tシャツ。そして、腰くらいにまで伸びている長い長髪、色は、恐らく染めていない黒、髪を頭の後ろで、男に対して余り使いたくは無いが、ポニーテールにしているらしい。歳は、分からないが、若そうだ。若いと言っても、20代中盤くらいだろうか？確かに、外見からして、余り普通とは、言えそうにないが、そんな事よりも、一番気になったのは、この雨の中、傘を差していない状態で、そこに平然の立ち、僕の事をじっと見ている事だった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0931z/>

---

元人間。元神。今？

2011年12月3日17時16分発行